

東京病院ニュース

第35号 2012年4月1日発行



発行元 独立行政法人 国立病院機構 東京病院
〒204-8585 東京都清瀬市竹丘3-1-1
TEL 042 (491) 2111 FAX 042 (494) 2168
ダイレクト・イン・ダイヤル 042 (491) 4134
ホームページ <http://www.hosp.go.jp/tokyo/>

院長就任のご挨拶



このたび、中島由槻前院長の退官にともない、本年4月より独立行政法人国立病院機構東京病院院長を拝命致しました大田 健（おた けん）です。院長就任の挨拶として私の略歴と所感を述べたいと存じます。私は昭和50年（1975年）に東京大学医学部を卒業し、麻酔科半年を含めた2年間の内科研修の後、物療内科に入局し、呼吸器およびアレルギーを専門とすることに決めました。それ以来、臨床はオーソドックスに、研究はユニークに、そして医療は自分や自分の家族が受けた内容を誠実に実践することを心がけて参りました。東大病院、国立医療センター（現在の国立国際医療研究センター）、聖マリアンナ医科大学、帝京大学と異なる医療施設での診療でしたが、その点はぶれていませんし、今後も貫きたいと思います。研究は、昭和55年から58年の3年間、米国コロラド州デンバー市にある National Jewish Center (NJC) への留学を含めてアレルギーと喘息に関する基礎的な研究で研鑽を積み、マウス喘息モデルの確立と喘息の病態に関与する液性因子の解明、培養上皮細胞による環境因子の機能的関与、ヒトにおける喘息寛解に関与する遺伝子解析などで業績をあげて参りました。また間質性肺炎も私にとっては大きなテーマで、ウイルス説の検証ということで全国の特発性肺線維症（IPF）の患者さんの血清を用いて、EBウイルスの抗体価の高値やC型肝炎ウイルスの高い陽性頻度を明らかにし、昭和63年から平成元年の15年間の2度目のNJCへの留学では、特発性肺線維症の肺生検組織で筋線維芽細胞を免疫染色することに成功し、帰国後はマウスの肺線維症モデルの確立と線維化に関与する液性因子の解明を行って参りました。臨床的には、喘息のガイドライン（JGL）の作成に平成5年の最初のJGLから関わり、平成16年からJGLの作成責任者を務めております。同時にCOPDガイドラインの作成委員でもあり、今後とも両疾患におけるガイドラインに沿った治療の実践を促したいと思います。呼吸器を専門とする35年余りの経歴を通じて、結核と肺癌についても呼吸器の専門医として必要な経験と知識は持ち合わせていると思います。そして、それぞれの疾患についての重要性、とりわけ我が国における結核に関する当院の重要な位置づけは十分に認識しております。本年1月14日に行われた旧国立療養所清瀬病院と旧国立東京療養所の統合50周年の祝賀会に出席し、改めてその

国立病院機構東京病院長 大田 健
歴史を実感することができました。しかし、当院には、これまでの歴史的背景を超えた役割が求められていると認識しております。また国立病院機構の一員として採算面への意識を職員全員で共有することも必要です。今後は、結核診療における我が国の筆頭病院という使命を果たすとともに、消化器、循環器、代謝などの分野も充実させ現在の医療事情に合った地域の中核病院として、さらに充実した医療が提供できる体制を整えたいと思います。結核とともに喘息、間質性肺炎、COPDについては日本を代表する医療機関として発展させたいと思います。また留学したNJCは当院と同じく結核の病院から発展しており、積極的な連携を構築し、臨床と研究の両面から当院の国際化と飛躍に結びつけたいと考えています。患者さんにとって快適で充実した医療を受けられる病院、地域の諸先生にとって信頼できる病診連携を実践する病院であると同時に、職員全員にとって忙しくても気持ちよく楽しく仕事のできる環境を作り上げ、さらに病院が発展するように全力で職責を果たす所存です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



副院長就任のご挨拶

この4月より副院長に就任致しました。東京病院には平成20年4月に臨床研究部長として着任し、同職を平成23年4月まで勤めました。平成21年4月より統括診療部長となり、2年間「二足のわらじ」ならぬ二職（にしょく）の兼務をしておりましたが、後任の統括診療部長がすぐには決まらないために、また、「二職のわらじ」となりました。副院長は、院内の委員会の半数以上の委員長（議長）で、統括診療部長もかなりの数の部会の会長（議長）をしていますので、医者の仕事よりも「司会業」のほうが多くなります。東京病院は委員会や部会が多い（つまり会議が多い）と言われており、実際そうなのですが、やはり、いろいろな（院内の）立場の人間が集まって真摯

副院長（統括診療部長併任） 庄司俊輔

に議論して物事を決めるのは大事なことで、大げさに言えば、民主主義の根幹とも言える重要事だと思います。「議長」としてお願いしたいのは、会議では是非とも積極的な討論をして頂きたいということです。他の職員が働いている時間に参加するわけですから、出席者は、それが重要な「公務」であることを自覚してもらいたいと思います。

この平成24年度の一年間は東京病院の経営にとっても、非常に重要な時期になると思います。新任の大田院長を支持しながら、私なりに精一杯努力したいと思いますので、東京病院の職員及び患者の皆様、それに近隣の医療機関の皆様方のご協力を是非ともよろしくお願い致します。

院長退任に当たって

平成17年4月1日に結核予防会複十字病院副院長から東京病院へ副院長として移動し、副院長を4年、院長業務を3年勤め、本年3月31日定年退職を迎えました。医師になって40年弱、外科医として38年、呼吸器外科も初めて33年、呼吸器外科専門となって22年、その一連の流れに一区切りがついたわけです。この40年のキャリアの積み重ねは途方もなく長い様に思えますが、今から振り返るとあっという間だった様にも感じます。何よりもまだ10時間程度かかる手術が今年になっても行えたという事実が、やっとの思いで定年を迎えた、と云う感覚を遠くに押しやっってしまうのでしょう。今回私は東京病院名誉院長の称号をいただきましたが、これからも原点に戻り、求めに応じて医者家業を続けて行くことになると思います。

ところでここで東京病院の来し方行き方について述べておきます。私は過去の歴史、現状をみて、今後の東京病院のあり方として、呼吸器を中心とする高度専門病院と地域医療をになう急性期病院の二つの役割があると位置付けました。この二兎を追うような事は一兎も得られなくなる危険性もありますが、東京病院のレベルはそれが可能だと判断したからです。幸い呼吸器科はこの間常勤医、専修医もそれなりに確保出来、病床数も200床前後を維持し、結核100床を加えると300床の多数を占めます。さらに呼吸器系の救急患者については3次救急対応可能な体制も取れるようになりました。そして呼吸器疾患センターを立ち上げ、喀

中島由槻

血センター、診断的胸腔鏡等も積極的に行っています。いっぽう地域医療への貢献は、この数年間で遅蒔きながら医師会行事への積極的参加、市健診の受入等行政との連携、東京病院連携医会の立ち上げや連携医交流会の実施、各種講演会、病院見学会等の施行による東京病院の地域への紹介等に務め、その後救急告示病院化までたどり着きました。診療科のバランスの悪さはあるものの、今後2次救急患者受入への準備をしており、さらに災害拠点病院の準備、DPC導入の準備等、東京病院にはまだまだやるべき事が沢山あります。また近年看護師の離職防止と確保に汲々としていて、結局7対1看護基準の業務レベルでありながら10対1を取らざる得ない看護業務の現状を少しでも改善するため、患者数を減らさないで病棟集約行い、看護業務の効率化を図る事にもなりました。このような流れの中で今後専門病院としてのさらなるアピールや地域へのより深い関わりが求められている時、院長を退官するのはいささか無責任の誹りを免れませんが、次期院長大田健先生にその舵取りをお任せすることと致しました。大田先生には情熱をもって導いていただけると確信しています。電子カルテ問題では、旧態依然たるオーダーリングに戻すか不十分でもIT化するか厳しい選択を求められ、後者を決断したのですが、選択した電子カルテのqualityがpoorであった事を前もって十分見抜けず導入後の混乱を生じてしまった点で、職員の皆様には申し訳なく思っています。

これについては皆様の今後のご検討を期待します。ところで東京病院の経営は何故か稼いでも稼いでも改善してこない状況にあります。この点については院長として多くの人々の意見を聞き、改善策をなしてきましたが、何故か黒字になりませんでした。もともと建て替えによる巨大債務を抱えている事が一つの要因ですが、その他の要因もあり、経営的に病院の適正規模を考える点で、院長として役不足であったと反省しています。

私は呼吸器外科医ですが、東京病院でも呼吸器外科チームに助けられながら、7年間に185例の手術を施行しました。その内感染症がNTM53例、Asp42例、結核関連16例、膿胸関連34例で患者は日本全国から来院し、多くの呼吸器外科施設で多い肺癌は35例のみでありました。長時間掛けて病巣を切除し得た時の充実感は無類のもので大きな喜びでもありました。手術日の関係上、手術助手をすることが出来ずそれが心残りでしたが、呼吸器外科諸先生方のご援助を心より感謝いたします。本当に有り難うございました。

私が家族の介護をしながら、そしてその為に対外活動に支障を来しながら院長職を何とか頑張れ

たのは、職員の皆様の多大なご支援のたまものと感謝しています。

これからの東京病院は、新しい院長、スタッフのもと、国立病院機構の一員としてしっかりとその役割を果たして行って下さい。東京病院は、経営的には完全に他の機構病院の援助を受けなければ維持できません。この間毎年の負債がさらに積み上がり、機構本部からの資金繰りでしのいでいます。ただし機構本部は今のところそれを止めることはないようです。しかし東京病院としてはそのような支援の下にあるからこそ、機構が求める東京病院への多くの役割を、自らの単なる損得を考慮するだけでなく積極的に果たしていただきたいのです。最後に、ウィリアム オスラー博士講演集「平静の心」で述べられている、我々医療者が患者になし得る唯一の戒めとして「己の欲せざる所、人に施すこと勿かれ」の言葉を贈ります。東京病院の専門医療高度化と地域医療への展開、そして機構病院としての大いなる存在感の発揮を期待して、退官のご挨拶と致します。皆様、本当に有り難うございました。



副院長退任に当たって

茅野真男

副院長として3年勤め、この度定年退職となりました茅野です。前院長の四元秀毅先生に“循環器科の核となって欲しいと”誘われて国立東京医療センターから当院へ移動して、5年半たちました。

270億円を掛けた立派な建物と、木々に囲まれた3万坪の敷地と言う素晴らしい環境で過ごさせていただきました。しかし結核療養所から地域の総合病院へ脱皮するという当院の過程で、私がお役に立てたかは心配です。

循環器科に関しては、来院時は瀬川医師一人であったのを、今回は松永洋一循環器科医長、高木英爾医長、岡橋典子医師、小川一矢医師と4人体制を残せました。

自分は総合内科専門医のひとりとして、現在は医師が余りに専門家しすぎ、患者様も高齢化して複雑化し、医療と他部門とのコミュニケーション不足に対して当院でも総合内科の充実が必要だと思うのですが、十分な理解が得られずに体制は確立できませんでした。

地域医療連携にあっては、診療所の先生方には大変な御支援いただきありがとうございました。今後ともよろしくどうぞよろしくお願い申し上げます。

ます。患者様にあっては、これから医療福祉分野が益々病院完結型ではなくなり地域医療施設との連携が必要なことを御理解賜りたいと思います。それにはまず当院が“掛り付け患者さんにはいつでも必要な医療を提供する”という救急体制の充実が必要と重々理解しております。

副院長として院内の10以上の委員会の委員長を担当しました。医療安全にあっては、患者さんからのクレームも含め、なんとか重責を果たせたかと思えます。電子カルテは使いにくいなか、皆様の努力でなんとか医療安全を果たせている現状です。しかし電子カルテは“汚い医師の字が誰でも読めるようになった”一つをとっても非常に有益であり、上手に使っていただきたいと存じます。安全衛生委員会としては特に看護師さん不足のなかで、厳しい労働勤務環境が続き、離職者が相次いだことは残念なことです。お体に気を付けて、乗り切って欲しいと存じます。

後任の庄司俊輔統括診療部長先生は、前任地で9年間副院長を務められたベテランであり、残された課題を解決いただけるものと思っています。当院の益々の発展を祈念して止みません。

統合50周年記念式典・病院祭

国立病院機構東京病院は平成24年1月4日に、国立療養所清瀬病院と国立東京療養所が、昭和37年に統合した名称変更してから、ちょうど50周年を迎えました。

統合50周年を記念し、記念式典、50周年記念誌編纂、記念病院祭を行いました。記念式典は平成24年1月14日に神田如水会館にて挙行し、清瀬市長をはじめ地元・医師会の方々、国立病院機構より鈴木医務担当理事、松本関東信越ブロック理事、関信ブロック病院長の方々、病院OBを含めた東京病院職員関係、総勢約190名の参加を頂き盛大に執り行われました。

片山透名誉院長より、「統合50周年を振り返って」の題目のもと、東京病院の歴史の深さと功績の偉大さを語られた御講演を頂きました。その後、同窓会のような和やかな式典が続き、東京病院の過去の懐かしさと現在を綴った「50周年記念誌」をお持ち帰り頂きました。

平成24年1月28日には「病院祭」を開催致しました。何せ病院初めて病院祭なので、まずは職員全員にアンケートすることになり、その結果に基づき、住民検診・健康相談部門、講演部門、職場紹介部門、アトラクション部門、デコレーション部門、広報部門、バザー・出店部門およびスタンプラリー部門の8部門をワーキンググループとして組織し、準備を開始しました。

まず、バザーの開催準備。出店の一角で保育所から製造器を借りてきて綿菓子とポップコーンの無料配布をしようということになりました。それからお菓子のつかみ取り。東京病院ネーム入り風船配り。スタンプラリーの達成者へくじで景品贈呈。検診では「血管年齢測定」と「骨密度測定」が目玉に決定。病院内の士気を高めようと、病院内全部署（病棟のみならず、事務部や洗濯場などすべての部署）で部署紹介ポスターを作成して展示（その中から院長賞やグランプリ賞を選定して表彰）。そして、最後の宣伝手段が、開催2日前の

新聞朝刊へのチラシ挿入。清瀬市を中心にA4版のチラシを4万5千枚配布しました。

さて、当日の1月28日。退場者数の少なさへの心配をよそに、開場1時間前にはすでにバザー狙いの客が100人以上来場。その後も来場者は増え続け、開始時刻の午前10時には、玄関付近がバザー待ち、綿菓子・ポップコーンの列、入場受付で、入り口付近は立錐の余地もなくなりました。午前11時にアトラクション開始。午前11時半に受け付け入場者数が千人を突破しました。そのころには、人気の「血管年齢測定」と「骨密度測定」の列が玄関付近まで伸び、やむなく整理券の発行を開始しました。お菓子の長蛇の列に並んで退屈そうなお子たちには着ぐるみ三人組が愛想を振りまき、我々も風船を配るなど走り回りました。怪我人が出ないかどうかは本当に気がかりでしたが、午後になり会場も落ち着きを取り戻し、午後4時に無事終了しました。その後全職員がホールに集合し、職場紹介ポスターの表彰などで盛り上がりながら散会しました。

さて、受付でプログラムを渡しながらかねた入場者数は1731名（お菓子欲しさに数回並んだ子供もいたようで少し減るかも）。車いすや、点滴台を持ち見物していた入院患者も数多く、参加職員は100名を超えているので、総参加者数は2千人を超えたと推定されます。バザーと出店の売り上げの合計159,168円は、全額を東日本大震災義援金として日本赤十字社に寄付しました。

以上、「初めての病院祭」の報告です。このあと、患者数が目立って伸びたわけではありませんが、参加した職員の間での親密さは増したように見えます。今後もこのような職員や近隣住民との連携を強める企画を考えていきたいと思えます。

（なお、本記事とほぼ同様の内容を、国立総合医学会雑誌「医療」の「余滴」欄に掲載予定です）

副院長 庄司俊輔



50周年記念式典



記念誌



病院祭

病院祭各部門(WG)よりの報告

健診・健康相談部門

外来看護師長 吉田ひろみ：副検査技師長 岩崎康治

1月28日当日の健康相談・健康チェックへの参加希望者は、開始時間前から並んでしまい健康への関心が高い事に改めて驚かされました。健康相談も普段は、担当の先生で診察をしてもらっている患者さんも、その日は、他の先生からの相談も聞いてもらえるとあって、各ブースに多数の方が相談されていました。血管年齢測定・骨密度は、1時間以上待っても、チェックしてもらいたいと並んでしまい、中庭の周りが、大変な騒ぎになってしまいました。昨年は、「看護の日のイベント」がなかったので、「この日を楽しみにしてまいた。」という声も聞かれ、普段病院では測定しない事をサービスでできる事にメリットがあるのだと思います。もう少しお待たせしないで、健康チェックができるように工夫していきます。参加して頂いたご来賓の皆様ありがとうございました。



講演部門

呼吸器科医長 松井弘稔

講演会は、いきいき呼吸教室というタイトルで、肺の病気というわけではないけれども、肺の健康に関心がある、という方々にお集まりいただきました。まず



肺機能を検査した後、運動負荷試験を行い、その検査結果を講義形式で説明しました。肺の模型も作成して、動きを説明しました。そのあと、みんなで体操と、ストロー吹き矢のリクリエーションをして終了しました。初期のCOPDの方が2名ほどいらっしゃいましたが治療を必要とするほどではありませんでした。

職場紹介部門

第一病棟師長 佐々木美津

病院の全職場が職場の特徴やアピール、仕事の写真やイラストなど使用し、模造紙にまとめ展示を行ないました。普段見ることのできない仕事風景や表情など各職場が工夫をこらしました。病院祭当日、職員はもちろん外来者の方々も楽しんでみていたようです。また優秀な作品や創意工夫された部署には、病院長賞やアピール賞など表彰をしました。その他、病院の紹介としては歴史の説明や昔の療養所時代の手書き病院の地図（見取り図）の展示、現在と昔の航空写真の掲示により、当時を懐かしく振り返られ多くの参加者は興味深く見入っていました。



アトラクション部門

庶務班長 近野和雄

「果たして何名の方が来ていただけるのか？」非常に不安でありましたが、コンサート会場（外来待合ホール）は沢山の来場者の方々に埋め尽くされました。コンサートの幕開けとなった、よさこいソーランを始めサックス演奏、ピアノ演奏、南米民族音楽、ジャズ演奏と様々なジャンルから構成が出来、来場者の方々にも満足して頂き大盛況となりました。コンサートの依頼を快く引き受けて下さった演者の方々に、心より御礼申し上げます。



デコレーション部門

副薬剤科長 蟻川 勝

デコレーション WG としては、当初は全体としてどのようなイメージとするのかが見えてこない、展示、健康診断、アトラクション等々内容をどう加味するのか、各セクションのブースは…、先行きの見えない中でのスタートでした。このような中で主眼に置いたのは、公道から 50 周年記念祭を行っていることがわかるようにすること、病院なので奇抜なデコレーションはやめようということになりました。結果的に見れば、派手さは無かったですが、展示やアトラクション、検診ブースのパネル等々のおかげで病院際らしくなっていました。病院際当日は、予想を遙かに上回る来院者数で盛大な記念祭となりました。我々の WG は準備が済めば手が空くので、風船作りの担当者以外は他の WG へのお手伝い。皆さん忙しそうに動き回っていました。相談コーナーで、「ここにこんな立派な病院があることを知らなかった」や、「今は職場と提携している診療所に行っているが、3 月で退職するため病院を探していた。家のこんな近くにあったなんて。紹介状があればよいのか」と言っていた方もいらっし



やいました。50 周年記念祭は、病院の存在を示すことができ、地域医療を進めていく上でも大きな意味のあるイベントであったと思います。今後はさらに地域医療の発展に貢献し、地元の皆様からより信頼の得られる病院となればと思います。

広報部門

入院係長 古越大介

1 月 28 日に東京病院祭が行われ、広報を担当させていただきました。50 年に一度の記念すべき病院祭、来場者が少なければ、広報の責任と不安もありましたが、病院祭が始まってみると想像以上の来場者に驚きました。皆様、ご来場ありがとうございました。アンケートでの病院祭の感想は、「良かった」、「これからも続けてほしい」という意見が多く聞かれ、うれしい限りです。「次回の開催は 100 周年だから 50 年後？」との質問もいただきました。東京病院では、病院祭ではありませんが毎年イベントを開催しています。5 月には、「看護の日健康フェスタ」(医師による医療相談、健康チェック他)、12 月には「クリスマスコンサート」(内容は変更になる場合があります。)を開催していますので、ぜひお越しください。

50周年記念

平成24年1月28日 土
時間 AM10:00~PM4:00

国立病院機構
東京病院

病院祭

家族で健康チェックに出掛けよう！

みなさまお誘い合わせの上
お出掛け下さい

無料体験

- お薬相談 健康相談
- 栄養相談 骨密度測定
- 血管年齢測定 身長・体重・血圧測定
- メンタルヘルスチェック

イベント

- 出店 バザー 綿あめ・ポップコーン無料配布
(なくなり次第終了)
- コンサート 素敵な景色
あります！
- 病院・職場紹介
- スタンプラリー お菓子
つかみどり
(こども限定)
- 講演 (イキイキ呼吸教室)
- 写真展※
石田波郷 俳句展示 ~石田波郷と東京病院~

※展示写真撮影中！病院製で写真を展示してみませんか？
展示を希望される方はホームページで詳細をご覧ください。

当日
駐車場
無料

主権 独立行政法人国立病院機構 東京病院
住所 東京都清瀬市竹丘 3-1-1
お問い合わせ 042-491-2111

東京病院 検索

展示部門

一般作業療法主任 大塚麻理子

東京病院の50周年記念の病院祭が無事に行われたことを職員の一員としてうれしく思います。今回は、その中で石田波郷の展示と写真展示を担当させていただきました。石田波郷と東京病院の展示では、多くの方が足を運んでくださりかなりのにぎわいを見せていました。これも石田波郷の会の方の準備のおかげだと思っております。また写真は、東京病院の自然あふれる写真やご家族との様子をおさめたものなどあり、とても良い作品が集まったと思います。また旧職員の方々は、昔の古き時代の写真を寄せていただき50年の歴史を感じられる写真展となりました。東京病院は、50年という年月が経ちましたが、今後も清瀬市をはじめ広く市民の皆様にも慕われる病院になっていければと思います。



バザー部門

栄養管理室長 野口一彦

50周年記念の病院祭を開催するに当たりおこなった職員アンケートで「バザーをやってはどうか」「出店があれば」などの意見が多数ありました。近隣の皆様への感謝と更に東京病院を知っていただくにはとても良い企画だと思いました。実施するに当たっては全職員からの沢山のバザー用品提供と院内レストランのピアンさんの全面的な協力による出店、そして綿あめとポップコーンは機械を院内のなかよし保育園からお借りするなど各方面から大きなバックアップをいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。私たちワーキンググループのメンバーは何度も会議を重ね商品の整理・値付けなどを行い準備をしました。当日は予想以上の人出でやや混乱することもありましたが、何人もの応援メンバーにも助けられ昼過ぎには完売という盛況ぶりでした。バザーをはじめ・綿あめ・ポップコーン無料配布・焼きそば・空揚げ・おにぎり・お



でん・豚汁の出店と来ていただいた多くの皆さんに楽しんでいただけたのではないのでしょうか。これを機にますます東京病院が皆様の身近な存在になっていければと思います。バザーの売り上げと出店の利益分の全額を東日本大震災の復興のため寄付させていただきました。皆様ご協力ありがとうございました。

スタンプラリー部門

副放射線技師長 谷崎 洋

予約センター受付にて活動開始時間10時を目標に準備を進めました。予想に反して開始時間前より来院される方が多く、混雑の予想がされました。10時開始とともにスタンプラリーの説明と案内で忙しくなり、くじの窓口には20名程の待ちが12時過ぎまで生じた。幸いなことに1位のディズニーファミリーチケットに組みともに親子で来られた方に当たり大変喜ばれ、2位の折りたたみ自転車は自転車大好きなおじさんに当たりました。その他の景品では喜びと残念な表情で大変賑わいました。15時ごろで景品（準備した景品総数1161組）がなくなったので終了とさせていただきます。子供から年配の方々まで、たくさん来られて楽しんでもらえることができ本当に50周年記念祭をおこなってよかったと感じました。



専門外来案内

専門外来名		診察日	このようなことでお悩みの方は、ご相談ください
呼吸器関係外来	禁煙 (予約制)	火(午前)	タバコがどうしてもやめられない方。 (当院の禁煙外来は、平成20年1月より保険が適用となりました。)
	肺がんセカンドオピニオン(予約制)	木(午後)	肺がん治療についてのセカンドオピニオンを希望される方。 [1時間まで10,500円]
	喀血 (予約制)	火(午後2時~)	咳をともなって気道・肺から出血する状態を喀血といいます。肺アスペルギルス症、気管支拡張症、非結核抗酸菌症、肺結核、肺癌の患者さんにおこります。ご相談ください。
	間質性肺炎	水(午前)	この病気は「息切れ」と「から咳」がよくある症状です。 治療が難しく、膠原病に合併する場合もあります。
	非結核性抗酸菌症	水(午前)	咳や痰が出て、血痰があるなど一見結核にみえますが違います。 結核とそっくりの症状がこの疾病です。他人への感染はありません。
	いびき COPD (睡眠時無呼吸症候群の検査)	月~金(午前)	ご家族などから「いびきが大きい、長く続く」あるいは「ねている時に息が止まる」などと言われた方。COPDを疑われたり、COPD呼吸リハビリを御希望の方。
ものわすれ外来	水(午後)	最近ものわすれのひどい方、アルツハイマー病などが心配な方。 (あらかじめ神経内科を受診して下さい。)	
高次脳機能外来	木(午後)	失語・失行や健忘などの診断、リハビリテーションへの紹介など (要神経内科外来受診)。	
肝胆脾	金(午後)	肝臓癌、胆嚢癌、胆管癌、膵臓癌や胆石症など、肝胆脾疾患の手術のご相談、お申し込み、セカンドオピニオン等に、専門の医師が対応いたします。	
地域リハビリ相談	木(午前)	連携医の先生方からかかりつけの患者様で、運動・言語・嚥下機能に問題があり、リハビリテーションをご希望の方。(かかりつけ医の情報提供書が必要です。)	

診療時間 8:30~17:15
 受付時間 午前8:30~11:00 午後12:30~14:00
 休診日 土・日・祝祭日および年末年始 (12月29日~1月3日)

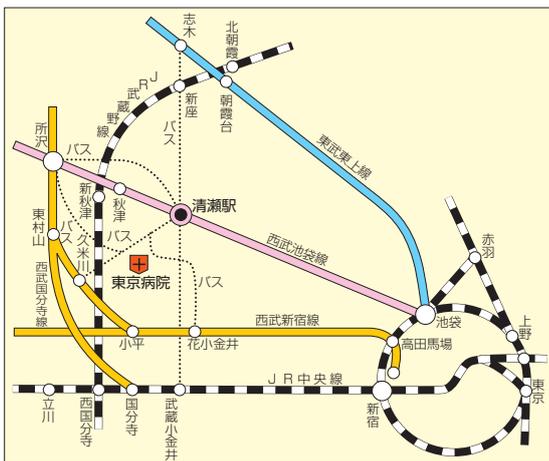
予約センター 042-491-2181
 (受付時間平日8:30~15:00まで)

医療連携室よりお知らせ 患者様をご紹介いただく場合 (医療機関)

外来診療の予約 : 診療依頼書をFAX送信して下さい FAX 042-491-2125 (8:30~15:30)
 CT・MRI検査の申し込み: 医療連携室へお電話下さい TEL 042-491-2934 (8:30~17:15)

診療内容 病床数560床

- 総合内科
- 呼吸器内科
- 消化器内科
- 循環器内科
- リハビリテーション科
- 呼吸器外科
- 消化器外科
- 神経内科
- 放射線科
- 麻酔科
- 整形外科
- 緩和ケア内科
- アレルギー科
- 泌尿器科
- 耳鼻咽喉科



交通

- 西武池袋線 清瀬駅南口よりタクシー5分、または南口バス2番乗り場より久米川駅行・所沢駅東口行は東京病院北下車、下里団地行・滝山営業所行・花小金井駅行は東京病院玄関前下車。(早朝夜間など東京病院玄関前を経由しない場合があります。)
- JR武蔵野線 新秋津駅よりタクシー10分、または西武池袋線に乗り換え。
- 西武新宿線 久米川駅北口より清瀬駅南口行で東京病院北下車。または花小金井駅北口より清瀬駅南口行きで東京病院玄関前下車。(早朝夜間など東京病院玄関前を経由しない場合があります。)
- JR中央線 武蔵小金井駅より清瀬駅南口行のバス路線があります。
- 東武東上線 志木駅南口より清瀬駅北口行のバス路線があります。
- お車で越しの際は正面よりお入り下さい。
 (駐車場265台)
 30分以内 無料
 31分~4時間 100円
 以後1時間毎 100円
 (20時15分~7時 1時間毎300円)

WEB検索

東京病院

検索

